

## 令和2(2020)年度 第3回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和2年11月4日(水) 14時45分～16時20分

2 場 所 栃木県立日光明峰高等学校 メディア I (北校舎3F)

3 出席者 委員11名

その他栃木県教育委員会事務局から2名、本校事務局職員6名、日光市職員1名

4 司 会 本校教頭

5 次 第

(1)開 会

(2)会長挨拶・授業見学の感想

会長：本日は急ぎで決定するような事項はないが、協議事項については様々な立場から意見やアイデアを出していただきたい。

<授業見学の感想>

委員：1年生を見学した。コロナ禍で授業も少ない中、まとまりがありチームワークが発揮できていた。2年生は意見の出し合いが活発であった。

委員：中学生と高校生の違いを感じた。入学し半年でよくここまでできるようになったと感じた。自己評価だけでなく、発表者を評価するといった点でも生徒の力を伸ばすことになり、とても魅力があり、引きつけられた。

委員：先生と生徒の距離が近い（アットホーム）だと感じた。

委員：ただ教えてもらうだけでなく、自主的に活動し、主体的に外に発信していく力がつく授業であった。

委員：社会人になると主体となって発信していく場は少なくなる。そのような場を積極的に作っていけると良い。

(3)校長挨拶

修学旅行は大阪を避ける形（広島・徳島・岡山）とはなったが無事終了した。

生徒の健康状態も良好である。

第1回進路希望調査の結果が先ほど発表された。10月1日現在の時点では希望者は25名（昨年度は同時期30名であった）。

(4)確認・報告・協議（以下の通り）

(5)事務連絡

次回（第4回）は2月17日（水）または18日（木）

(6)閉 会

6 確認・報告

(1) 第2回学校運営協議会（8/3開催）について：記録をHPに掲載・公表  
ア 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う学校運営について

イ 入学志願者の確保について

ウ 日光市のH.C栃木日光アイスバックスへの業務委託による本校存続の取組

(2) 夏季休業以降の生徒状況について

○在籍数、学習活動、特別活動、第3学年進路状況・・・・・・・・・・資料1

(3) 学校行事について・・・・・・・・・・資料2

○持続歩大会、オープンスクール、修学旅行、明峰祭、球技大会 他

教務主任

- ・持続歩大会は今年度から新コースでの実施であったが、台風の影響もあり残念ながら中止となった。
- ・オープンスクールは申し込み33名、参加者30名であった。
- ・明峰祭はコロナ禍での事情を考慮し、規模を縮小して実施する予定である。

(4) 総合的な探究の時間（日光学）について・・・・・・・・・・資料3

学習部長より説明

- ・課題を生徒自身に認識させ、地域の資源を活用することによって成長し、社会での役割を意識させていきたい。
- ・1年次はグローバルな目線を成長させていきたい。2年次は日光に目を向け、社会における自己の役割、可能性を模索し、地域に愛着を持つことを目標としている。3年次は自己を中心とした探究活動を行い、これまでに学んだことを通して自己の進路を研究し、進路の確かな動機付けをしていきたい。
- ・3年間を通しての自己実現を目指す。進路部との連携を図り、充実したものにしていく。

## 5 協 議【進行：会長】

(1) 入学志願者の確保及び魅力化・特色化の推進について

ア 内部組織の活動

① 校長による中学校訪問

② 魅力化推進係の取組・・・・・・・・・・資料4

報告（第2回運営協議会～10月までの活動） 魅力化推進係より

- ・第2回学校運営協議会でいただいたご意見・アイデアを参考に委員で話し合いを行った。
- ・10月の明峰だよりは各学年の「総合的な探求の時間」を特集し、SDGsの活動の様子や生徒の感想なども掲載した。
- ・教員の負担になっているという点では、現在ソフトを使える教員が限られている。記事集めやその他の部分で仕事を分担し、負担を減らすようにしている。
- ・次年度からは隔月発行でも良いのではという意見も出ている。
- ・大学との協働について、明峰だよりに関しては未知の部分が多く、新たな負担も考えられ、難しいと考えている。学校案内やポスター作成等で協力していけたらと考えている。

- ・オープンスクールのチラシでは各中学校に卒業した生徒の写真・コメントを掲載し配布した。オープンスクールの参加者が昨年度より増加し、効果があったのではと考える。
- ・アイスボックスとの連携事業については今後検討していく。

委員より

委員：明峰だよりの発行が教員の負担になっていることは本末転倒である。隔月発行でも仕方ないのでは。

委員：明峰だよりは地域の中でも認識されている。外部発信については幼小中高の中で明峰が一番よくできていると感じる。負担であるのなら隔月でも仕方ないのでは。

委員：記事集めに関してはどのような状況であるのか？

係：発行してから2年以上経ち、部活動紹介や教科の紹介等も2周りほど行った。また月によっては行事が少ない月もあり、記事集めに関しては苦勞しているのが現状である。

委員：掲載したい記事があるときは出して、無いときは2ヶ月に1回や3ヶ月に1回でも良いのではないか。地域にいるそのソフトが得意な方をボランティアとして活用してみてもどうか。

委員：手法を少しずつ修正していても良いのではないか。

委員：生徒を使っても良いのでは。自分で作成に携わるにより魅力を再認識できる。

委員：認知度はあがっているので、内容が充実していければ良い。

委員：一定の効果はでている、見直す時期ではないか。

校長：行事等がないときも必ず発行しており、他の学校ではやっていないことである。在り方を見直し、それに変わるPRを行っていききたい。例えば授業の良さや、生徒と教員の近さ等を実際に学校に来てもらって見てもらう機会を増やすなど考えられる。

## イ 外部機関との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料5

### ① 日光市による支援

○日光市のH.C 栃木日光アイスボックスへの業務委託による本校存続の取組

- アイスホッケー部の支援（強化指定選手）
- 地域に根ざした生徒育成（国際理解、語学力向上、職業体験）

委員より

委員：アイスボックスと提携していることは、明峰としては中学生に周知しているのか？

アイスホッケー部顧問：部活動としては周知していない。しかし、保護者等の話を伺うと、アイスボックスのHPや日光市の広報から情報は得ていてご存じの方はいるようである。

委員：語学力の向上とあるが具体的にどのようなことを計画しているのか？

教頭：アイスホッケー部への技術支援だけではなく全校生徒への還元（講演会や実際の授業）を考えている。生徒の意識高揚の動機付けになればと考えている。

委員：動機付けにとどまらずもう一段深化させてほしい、社会に出て初めて英語での日常会話の重要性がわかる、生徒にもその重要性を理解した上で実際の授業を支援していただいたほうが理想なのではないか。

校長：オープンスクールなどで英語の授業を見学していると、教員も生徒もすべて英語で話しており、理想に近づいているのではないかと考える。動機付けに終始せず、生徒に挑戦させていきたい。

委員：講演会に関してはメディアに公開する予定はあるか？

教頭：実際に決定した段階で公開していく。

委員：日光市の方で日光市内の高校をPRしていくような動きはあるか？

委員：現在特例校ということもあって、優先的に行っている。日光明峰高校が軌道にのってからはないと市内の他の学校も難しい。

## ② 大学との協働

a 宇都宮大学との協働プロジェクト（サロン活動の展開）

b 文星芸術大学との連携（日光学の深化）

会長：本日、大学生と高校生との話し合いが行われている。今年度中に一つでも何か形でできれば良い。

## ウ 県外生徒の志願状況・受入準備・・・・・・・・・・資料6

① 志願状況

② 受入体制

### アイスホッケー部顧問より説明

- ・実際に県外より連絡があったのは11名。体験練習会を行ったところ参加者は昨日・一昨日ともに5名であり人数としては6名の参加であった。21日（土）にも体験練習会の予定である。
- ・現時点では、5名程度の受験が見込まれる。
- ・サポーターハウスには1年生12名が下宿している。第2の下宿所を開所する見込みで現在動いている。